

Buzz MK Racing
SUPER FORMULASUPER
FORMULA

RACE REPORT

Round 08
SUGO

8-9 August 2026

初のリタイアも、逆境のなかで掴んだ確かな手応え
結果以上の収穫を手にした SUGO 大会

第3戦オートボリス大会が悪天候により順延となった影響で、異例の1大会3レース開催となった前戦の富士大会。慌ただしい週末のなかでペナルティやピットでのミスが響くなど悔しいレースが続いた反面、学びの多い一戦となった。どのような場面でもしっかりと確実に対応できるように、一步一步着実に体制を整えていくことを誓ったレースとなったが、ポジティブな面もある。

予選ではチーム最高グリッド獲得やクルマのセットアップの方向性が垣間見えるなど、開幕戦から積み重ねてきた成果が確実に現れてきていると言える。ここまで7戦を戦ってきたなかで、チームとドライバーともに着実に経験を積み重ね、少しずつ成長の手応えを掴み始めていた。その成果をさらに確かなものとすべく、年に一度の東北ラウンド、第8戦 SUGO 大会へと臨んだ。

FREE PRACTICE

今大会は前戦の富士大会とは異なり、1大会1レース制で争われる比較的落ち着いたスケジュールが組まれていた。ところが、レースウィークを前にロマン・スタネックが体調を崩すというアクシデントに見舞われた。本来であれば木曜日にサーキット入りする予定だったが、来日は金曜日、サーキット入りは土曜日の朝という慌ただしいスケジュールを余儀なくされる。初めて走るスポーツランドSUGOにもかかわらず、コースウォークへ参加する時間も確保できず、コースを十分に把握できないままフリー走行へ臨むことに。体調面に加え、準備の時間も限られるという厳しい条件のなかで、週末の戦いが幕を開けた。

初日を迎えたスポーツランドSUGOは夏空が広がり、午前9時から始まったフリー走行は気温28度、路面温度35度と強い日差しが照り付ける蒸し暑いコンディションで始まった。スタネックは、自身のコンディションを確認しながら慎重にコースイン。初走行となるスポーツランドSUGOでコース習熟を進めるとともに、セットアップの確認にも取り組み、週末の土台づくりを進めていった。序盤は連続周回を重ねながら、ピットイン・アウトを織り交ぜてセットアップを確認。周回を重ねるごとに着実にタイムを更新していった。

QUALIFYING

走行後もスタネックの体調は万全とはいえず、大事をとってピットウォークはやむを得ずキャンセルし、予選、そして翌日の決勝に向けたコンディション調整を最優先とした。そして、定刻14時20分に予選開始時刻を迎え、スタネックはQ1 B組に出走。スポーツランドSUGOはコース幅が狭く、オーバーテイクが難しいことから、決勝では予選順位が大きな鍵を握る。そのためチームは、フリー走行で十分な確認ができなかったニュータイヤでのデータを補うとともに、Q2進出を確たるものにすべく、Q1で新品タイヤを2セット投入する戦略を選択した。1セット目のニュータイヤで早めにアタックへ入り、2周目に1分06秒780を記録。その後ピットへ戻ると、再び新品タイヤへ履き替え、最後のアタックへ臨んだ。

初走行のスポーツランドSUGO、さらにこの週末初めてとなる本格的なニュータイヤでのアタックだったが、スタネックは最終ラップで全セクターを自己ベストでまとめ上げ、1分06秒000までタイムを短縮。一時はQ2進出圏内となる6番手につけた。

しかし、セッションが進むにつれて日差しは一段と強まり、路面温度は50度を超える過酷なコンディションに。マシンやタイヤへの負担はもちろん、前日から体調を崩していたスタネックにとっても、日本特有の蒸し暑さは決して楽なものではなかった。そこでチームは無理に走行を重ねるのではなく、予選、そして翌日の決勝を見据えた判断を下す。21周を走行したところで一度マシンを降り、身体を休めながらコンディションの回復を最優先。限られた走行時間のなかでも最大限に活かすべく、チームとしてできる限りのことを行った。セッション後半の組み分け走行では、スタネックがヘルメットを被り再びコックピットへ。予選を想定したシミュレーションを進めながら周回を重ねると、アタックラップでは自己ベストとなる1分06秒854を記録した。最終的に27周を走破し、トップから1.074秒差の20番手でフリー走行を終えた。しかし、体調面を考慮して走行時間を制限したこともあり、前戦の富士大会で得た好感触を反映させたベースセットアップの確認や、ニュータイヤ装着時の車体バランスを十分に詰め切るまでには至らなかった。それでもチームは、限られた走行で得られたデータを丁寧に分析し、できる限りのことを施して午後の予選へ向けてコンディションを整えていく。



しかし、チェッカーラップでライバル勢が次々とタイムを更新し、最終的には8番手で惜しくもQ1敗退。それでも、ニュータイヤ装着時の車体バランスやベースのセットアップには確かな手応えを得ることができた。タラレバではあるが、スタネックの体調が良ければQ1突破も望めたかもしれないという、ポテンシャルを確認できた。厳しいコンディションのなかでも掴んだ収穫を力に変え、チームは決勝での巻き返しに向けて準備を進めていった。

RACE

決勝日は朝から雲が広がり、前日ほどの厳しい暑さは和らいだコンディションとなった。午前9時30分から行われた30分間のフリー走行では、決勝を見据え、スタネックが自身のコンディションを確認しながらコースイン。序盤は連続して9周を走行し、その後も周回を重ねながらマシンの最終確認を進めた。計16周を走行し、自己ベストは1分07秒863となり、16番手でセッションを終えた。この日もスタネックの体調は万全とは言えず、大事を取ってピットウォークへの参加を見送る判断を下した。駆けつけてくれた東北のファンとの交流はかなわなかったものの、その思いも胸に、チームは決勝でひとつでも上のポジションを目指すことを誓い、最後の調整を進めるとともに、スタネックのコンディション回復にも努めた。

そして、13時25分からのレコノサンスラップを経て、ホームストレートではスタート進行が始まる。緊張感に包まれるなか、スタネックは気持ちを落ち着かせ、コンディションを整えながら決戦の時を迎えた。1周のフォーメーションラップを終えて再びグリッドに着くと、ブラックアウトとともに51周の決勝レースが幕を開けた。スタネックは好スタートを決め、オープニングラップでひとつポジションを上げる。さらに4周目には13番手まで浮上すると、その後も安定したラップタイムを刻みながら上位争いに食らいついていった。そのペースをみかねたチームは早いタイミングでのピット作業を決断し、ピットウィンドウがオープンした14周目、チームは素早いピット作業でスタネックをコースへ送り出す。しかし、20番手でコースへ復帰した直後、ひと足早くピットを終えてタイヤを温めていた2台に先行を許し、22番手へと後退してしまう。それでもスタネックはすぐにペースを立て直し、ライバルと互角、あるいはそれを上回るラップタイムを連発するなど、チームの想定以上のパフォーマンスを発揮した。

体調不良の影響から、この週末は十分なロングランをこなせておらず、終盤までペースを維持できるか、完走できるかが懸念されていた。体調不良の影響から、この週末は十分なロングランをこなせておらず、終盤までペースを維持できるか、完走できるかが懸念されていた。しかし、その不安を払拭するかのよう、スタネックは上位勢にも引けを取らないペースで周回を重ね、着実にポジションアップを果たしていく。ところが、ポイント圏内も視野に入れながら追い上げを続けていた26周目、レインボーコーナーで突如スピンを喫する。何とかコースへの復帰を試みたものの、マシンはグラベルにはまり、自力での脱出は叶わず無念の戦線離脱。ナビクル Buzz MK RACING とスタネックにとって、スーパーフォーミュラ参戦以来初となるリタイアという悔しい結果となってしまった。

リザルトこそ残すことはできなかったものの、体調不良や限られた走行時間という厳しい状況のなかでも、スタネックとチームは随所で確かな速さを示した。スタネックも「今までにないほどのグリップ力を感じる」と口にしており、ベースセットアップや車体バランスの方向性にも手応えを得るなど、多くの収穫を持ち帰る一戦となった。阿部和也エンジニアも「まだ課題はありますが、レースペースも良く、今までに比べると随分いいところで戦うことができました。もう少しタイヤが摩耗した状態や燃料が軽くなった状態でのペースをもう少し見たかったのが正直なところですが、パフォーマンスは良かったので、そこは次戦にも繋がると思います」とコメント。初めてのリタイアという悔しさは残ったものの、この経験と手応えを力に変え、チームはさらなる上位進出を目指して次戦の富士大会へと歩みを進めていく。



DRIVER & DIRECTOR COMMENTS



ROMAN STANEK Driver

「SUGO 自体は初めて走るサーキットでしたが、とても気に入っていますし、限界まで攻めた走りができる、素晴らしいサーキットですね。ただ、僕自身 5 日間にも食べ物をお口にすることができず、とても辛い状況で、アタックをするのにも、ロングランをするのにも決して簡単な状況ではありませんでした。その状況を考えると、予選はかなりポジティブな結果でしたし、チームにとっても良い結果を残せたと思います。決勝レースもまだトップ 5 を争えるレベルとまでは言えませんが、ポイントを獲得できていた可能性は十分にあったと思います。でも残念ながら、自分が攻めすぎてしまったことで、クルマに無理をさせてミスをしてしまいました。身体的にも精神的にも集中力を欠いてしまったことで、スピンを喫して完走することができませんでしたが、前回に比べると良い結果でしたし、スピンをするまではとても良いパフォーマンスのレースペースを見せられたと思います。この良い結果を糧に、次のレースへと臨むことができると思います。次戦はまた富士でのレースなので、しっかりと結果に繋がられるように、集中して準備を進めていきます」



KENICHI HASEGAWA Director

「レースウィーク直前にスタネックが体調を崩し、土曜日の朝に現地入りするという厳しいスケジュールでレースウィークを迎えることになりました。それでも本人は休息を取りながら公式練習からしっかりと走り切り、予選でもあと一步で Q2 進出というところまで戦えたことは、チームにとって非常にポジティブな内容だったと思います。決勝では結果こそリタイアとなってしまいましたが、エンジニアの阿部をはじめチーム全員で取り組んできたセットアップの方向性がようやく形になり、レースラップもとても良く、今まで以上のレベルアップを感じられ、チームとしても良い流れを掴むことができています。次戦の富士に向けても光明が見えたと感じられる SUGO 大会でした。スタネックのフィードバックも非常に的確で、マシンをさらに良い方向へ導いてくれています。次戦富士に向けては少しインターバルがあるので、再び見直しが必要ですが、ベースセットアップの方向性は見えてきました。チームの総合力を駆使できれば、Q2 進出やポイント獲得も十分狙えると感じています。次戦の富士に向けてしっかりと準備を進めていきたいと思います。今大会もナビクル Buzz MK RACING のメインスポンサー様をはじめ、多くの関係者の皆様に温かいご声援をいただき、心より感謝申し上げます。引き続き応援のほど、よろしくお願い申し上げます」

